

めぐみイエス・キリスト教会

2023年9月10日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第673号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌358「神なく望みなく」	p. 572
【交読文】	No.34 詩篇第108篇	p. 907
【賛美Ⅱ】	新聖歌252「安けさは川のごとく」	p. 390
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「主と共にいつまでも」	
【聖書朗読】	ルカの福音書1章57節～66節(新約p. 109上段)	
【礼拝説教】	《バプテスマのヨハネの誕生》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章57節～66節)

1:57 さて、月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。

1:58 近所の人たちや親族は、主がエリサベツに大きなあわれみをかけてくださったことを聞いて、彼女とともに喜んだ。

1:59 八日目になり、人々は幼子に割礼を施すためにやって来た。彼らは幼子を父の名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、

1:60 母親は「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。

1:61 彼らは彼女に「あなたの親族には、そのような名の人はいません」と言った。

1:62 そして、幼子にどういう名をつけるつもりか身振りで父親に尋ねた。

1:63 すると彼は書き板を持って来させて、「その子の名はヨハネ」と書いた
ので、人々はみな驚いた。

1:64 すると、ただちにザカリヤの口が開かれ、舌が解かれ、ものが言える
ようになって神をほめたたえた。

1:65 近所に住む人たちはみな恐れを抱いた。そして、これらのことの一部
始終が、ユダヤの山地全体に語り伝えられていった。

1:66 聞いた人たちは皆、これらの事を心に留め「いったいこの子は何に
なるのでしょうか」と言った。主の御手がその子と共にあったからである。

●ポイント1.「御使いガブリエルのザカリヤへの預言」とは？

※ルカの福音書1章13節～17節抜粋「神殿にて」(新約p.106下段真中)

1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの
願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男
の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人も
その誕生を喜びます。

1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い
酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子ども
たちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主の
ために、整えられた民を用意します。」

●ポイント2.「ヨハネ」とは？

■ヨハネ ヘブル語「ヨーハーナーン」のギリシヤ語形で「主は恵み深い」
という意味。伝承では、紀元前7年頃、祭司ザカリヤと妻エリサベツの老
年に生まれ、ユダヤの荒野で成長し、荒野で神の言葉を受けた。その荒
野での生活が、洗礼を行なうエッセネ派と関係があると伝えられている。

●ポイント3.「いったいこの子は何になるのでしょうか」とは？

※ルカ3章1節～3節「紀元27年9月から10月」(新約p.113上段右側)

◎先週の礼拝メッセージ【マリアの賛歌(マグニフィカト)】

《「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたを覆います。」
「ご覧下さい。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのお言葉どおり、この身になりますように。」

受胎告知の時には、まだ預言であって、マリアはその体験をしていません。その後、マリアは、一人でその体験をしたかと思われれます。そして、「山地にあるユダヤの町」に向かいました。エン・カレムで、マリアとエリサベツは再会します。エリサベツがマリアのあいさつを聞いた時、子が胎内で躍り、彼女は聖霊に満たされ、大声で預言します。

すると、マリアも聖霊に満たされ、賛歌を返すことになるのです。この賛歌は、最初の言葉のラテン語(あがめる)から、マグニフィカトと呼ばれています。何と、きちんと韻が踏まれているのです。また、旧約聖書には、マリアが参考にしたと思われる同じような賛歌があります。

それは、「ハンナの祈り」と言われ、かつては不妊の女性であったハンナに、サムエルが与えられた時に、彼女が語ったものです。

エリサベツとマリアは、互いに聖霊に満たされ、そして互いに懐妊した喜びを表わしました。このことは、私たちに、主にある兄弟姉妹の交わりが、いかに神様の祝福があるのか、とすることを教えています。都上りの歌、詩篇133篇は、まさにそのことを謳っています。

『見よ。なんという幸せ、なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって共に生きることは。それは頭に注がれた貴い油(聖霊)のようだ。主がそこにとこしえの命の祝福を命じられたからである。』と。

さらに、使徒パウロは、私たちに命じています。『いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。(ピリピ4:4)』と。

私たちが喜ぶ時に、神様も喜んでおられるのです。例え、喜ぶことが出来ない状況であったとしても、神様を知ったこと、永遠の命が与えられたこと、主イエス様の十字架の救いの御わざを喜ぶのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、9月17日(日)で、斉藤順子先生が来られます。